

スタート

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

3学期がスタートして一週間が経とうとしています。

2学期終業式では牟禮さんが、「3学期は三年生になるための準備をする三年生の0学期です。」と言っていました。

皆さんは、そういったことを意識して3学期を迎え、そしてこの一週間過ごしてきたでしょうか。

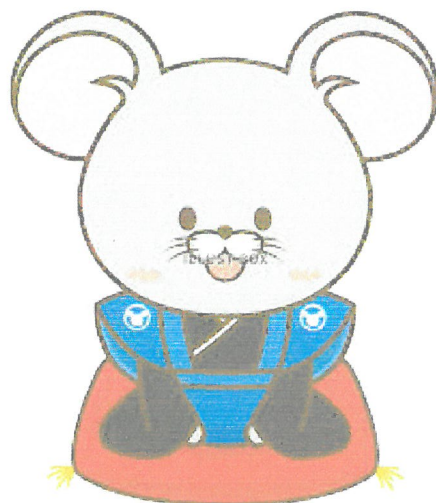
今年最高学年の三年生となり、あらゆる場面で伊敷中学校の顔、リーダーとしての言動が問われてきます。また、今年受験生でもあり、中学卒業後の進路選択に対して、自分自身を見つめ直し、周りの人の意見に耳を傾け、最終的には自分自身で決断していくこととなります。

進路選択においては、理想と現実のギャップに悩むことがこれから多くなることでしょう。

去年よりも「大変」な年になりますが、人として「大きく変わる」成長できるチャンスでもあります。

今年、「緑学年の生徒は、格好いい、品がある、美しい」と言われるようになってほしいです。前回は書きましたが、「格好いい、品がある、美しい」をまとめて表現すると、「粋」という言葉に言い換えられます。そして、「粋な行動」とは「他人のことを考えて行動する」ということとなります。

「粋な緑学年」をめざして頑張っていきましょう。



「ありがとう」に込められたメッセージ

「ありがとう」という言葉は、もともと、「有り難し」が語源になっており、仏教に由来する言葉だそうです。

「有ることが難しい」と書いて、有り難いといいます。

「人の生を受くるは難(かた)く、いま生命あるは有り難し」という言葉が仏教の教えのなかにあるそうです。これは、私たちが人間に生まれ、生きているということは大変、稀有なこと。そして、今、生きているということは、大変、有り難いことだということを意味します。

両親が出会わなければ、どこかですれ違っていたら、今の私たちはここにいなかったでしょう。何かの歯車が少しずれていただけで、私たちはこの世に存在しなかったかもしれません。

そう考えると、この世に生まれ、今を生きているということは、大変、ありがたいことといえます。

この「ありがとう」という言葉は、単に何かをしてくれたことへの感謝だけではなく、あなたがここにいることそのものを喜び、祝福する言葉なのです。

生まれてくれて、ありがとう。

ここにいてくれて、ありがとう。

その人の存在そのものに、有り難いと感謝する言葉ですね。

